

一九六七番

かぐはしき はなたちばな 花橘を たまぬ 玉に貫き おく 送らむ妹は いも
みつれてもあるか

一九六八番

ほととぎす きな 来鳴きとよもす たちばな 橘の はなち 花散る庭 には
を み 見む人 ひと や たれ 誰

一九六九番

我がやどの はなたちばな 花橘は ち 散りにけり くや 悔しき時 とき に
あ 逢へる君 きみ かも